

発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:2024年3月号掲載

「ちょっと待って」はどのくらい？

突然ですが「ちょっと待って」と言われて、あなたはどのくらいの時間なら待てますか？1分？5分？人によっては30分や1時間という人もいます。このように“ちょっと”という言葉は便利である一方で、抽象的で具体性に欠けます。“ちょっと”の時間感覚が1時間の人が「ちょっと待ってね」と言い、待つ側の相手の“ちょっと”が1分だとすれば、「どれだけ待たせるの!？」と相手を怒らせることになりかねません。

発達障がいの人の中には、“ちょっと”のような抽象的な表現や曖昧な表現、比喩や冗談などの理解が難しいと感じる人がいます。例えば、「その辺にあるものを適当に片付けといて」と言われたとき、発達障がいの人は「その辺ってどこだろう・・・」「適当にってどうしたらいいのだろう・・・」と困ってしまいます。言った側は「なんとなくわかるだろう」と思って話していても、曖昧な表現では相手に意味が伝わらなかったり、間違っって伝わってしまうことがあります。

このような場合、相手に正確に伝えるためには、抽象的な言葉を避け具体的な表現を用いることが大切です。例えば「ちょっと待って」は「10分待って」「12時まで待って」と数字を用いるとよいでしょう。また相手が時計の読めない子どもであれば、「長い針が6のところまで」と示したり、タイムタイマーなどの道具を用いるのもよい方法です。「その辺にあるものを適当に片付けといて」は「机の上にある紙と筆記用具を引き出しの中に入れておいて」のように具体的な場所や物を示すと分かりやすくなります。このように、言い方を少し工夫することで、円滑なコミュニケーションを図れるとよいですね。